

地理学会ニュース 2019年度 第2号

法政大学地理学会 2019年9月30日発行

法政大学地理学会 2019年度第2回例会(巡検) の案内

テーマ：大都市内部の産業地域を巡る

日 程：2019年12月14日(土)
集合場所：JR秋葉原駅電気街口改札前
集合時間：10:30
解散場所：JR南千住駅
解散時間：16:30
案内者：小原文明、佐々木星弥
参加費用：実費

定 員：30名程度(先着順)
申し込み：2019年11月30日までに、集会委員会宛(shukai@chiri.info)にメールにて申し込みのこと。参加者は先着順で受け付けます。

主な見学場所(予定)：2k540 AKI-OKA ARTISAN、宝飾品街、皮革産業集積地域、皮革産業資料館、印刷工場、インキュベーション施設。

趣旨説明：今年度の第2回例会では、東京内部の産業集積地域を巡りたいと思います。

東京には多くの都市型産業が集積しています。具体的には、印刷業やアパレル産業(衣服、皮革、宝飾など)、IT産業など、いわゆるクリエイティブな産業が該当します。そのような集積の背景として、巨大な消費地(需要)の存在、資本や情報の集中、人材の供給などが挙げられます。そのような産業は時代に応じて変化を遂げながらも継続して立地しているのが特徴的です。

今回の巡検を通じて、それらの産業が立地する地域の地理的特徴などを確認できればと考えています。

注意事項：巡検当日は多くの距離を歩くことになるので、必ず歩きやすい靴や服装でご参加ください。なお、上記の見学場所は現時点での予定であり、今後変更の可能性があります。また、実際の見学先によっては、集合場所や解散場所を変更することもあります。巡検の詳細は、改めて参加者にメールにてお知らせします。

(集会委員会)

法政大学地理学会 2019年度第1回例会報告
シンポジウム「東京と江戸をつなぐ～風景と場所～」(法政大学江戸東京研究センターと共催)

2019年7月6日(土)13時30分～17時30分にかけて、法政大学市ヶ谷キャンパス富士見ゲートG602教室において、法政大学江戸東京研究センターとの共催で、「東京と江戸をつなぐ～風景と場所～」と題するシンポジウムが開催されました(参加者188名)。本シンポジウムでは、建造環境などに残された痕跡や絵図や写真など刊行物に投影された描写を手掛かりとして、現代「東京」に見られる「江戸」や近代期の「東京」を探し出すとともに、「変わるもの」および



写真1 会場の様子

「変わらないもの」についての検討を通じて、「江戸東京」の個性の一端を明らかにすることを目的としました。報告者は米家志乃布（本学文学部）、牛垣雄矢（東京学芸大学）、コメンテーターは根崎光男（本学人間環境学部）、横山泰子（本学理工学部・江戸東京研究センター長）、趣旨説明と司会は小原文明（本学文学部）により、シンポジウムは執り行われました。

米家氏による第1報告（「近代の名所図会・絵地図からみる江戸のイメージ」）では、近代東京の代表的な名所図会である『風俗画報』別冊の「新撰東京名所図会」を中心に、明治期に生きる当時の人々にとっての東京名所のイメージが検証されました。



写真2 米家氏による報告

牛垣氏による第2報告（「東京の近代都市整備と神楽坂における地域的個性の形成」）では、都市開発や商業面における経済合理性の観点から、商業地区（歓楽街・盛り場）としての神楽坂地区の個性の形成および変容、ブランド化について検討がなされました。



写真3 牛垣氏による報告

上記2つの報告を受け、根崎氏による米家報告に対するコメントでは、「江戸名所図会」と「新撰東京名所図会」との差異に関する見解が示されたと同時に、それぞれの図会が時代の要請に応えた形で制作されたのではとの問題提起がなされました。



写真4 根崎氏によるコメント

また、横山氏による牛垣報告に対するコメントでは神楽坂の特徴について、江戸文学の観点から、近代都市開発により神楽坂の風景は一変したが、宗教的・芸術的な場としての神楽坂の性格は維持されてきたとの指摘がなされました。



写真5 横山氏によるコメント

最後に、フロアの聴衆も含めた総合討論では、『新撰東京名所図会』の対象とする範囲や場所、対象物、編纂された時代性について、交通整備など都市開発に伴う場所性や場所感覚の喪失などについての議論が交わされました。そして、議論を通じて、名所やブランド化された地域に関する共通点として、地域の範囲や地形など「変わらないもの」による場所性の形成が重要であ

ることが確認されました。



写真6 総合討論の様子

4 時間を超える長時間のシンポジウムであったにもかかわらず、多くの参加者が熱心に耳を傾け、積極的な議論が交わされました。その結果として、報告・コメント・総合討論を通じて多くの論点や問題提起がなされる有意義な例会となりました。ご講演ならびにコメンテーターを務めていただいた4名の方々、そしてご来場いただいた会員諸氏に感謝する次第です。

(集会委員長 小原文明)

会計委員会より

今年度の会費未納の会員各位におかれましては、法政地理 51 号に綴じ込んでいる振込用紙にて、速やかな納入をお願い致します。本学会は会員の会費によって運営されておりますので、ご理解ご協力よろしくお願い致します。

また、住所変更は法政地理 51 号綴じ込みの總會申込ハガキの下部に記入欄がありますので、そちらにご記入の上、お知らせいただければ幸いです。なお、その際は、受取人払い期限が過ぎておりますので、申し訳ありませんが郵便切手を貼付の上ご投函下さい。もしくは、学会ホームページの連絡メールアドレスから、会計委員会宛にメールでご連絡いただいても結構です。

会員動向

【入会】(2019.5.16～9.20 まで。敬称略、申し込み順)

・[一般] 木南 和也 (新潟)

・[学生] 中山 貴嗣 (千葉) / 小野 峰則 (千葉)

【逝去会員】

・三浦久蔵 (神奈川) 2019 年 4 月 16 日逝去
享年 89 歳

法政大学地理学会創立 70 周年記念行事関連

1. 記念論文集

(1) 編集委員会 2019. 7. 27、2019. 8. 27

(2) 編集委員会の体制

編集委員長：相原正義、

編集副委員長：細田浩、

事務局長：加藤美雄

編集委員：吉岡耀子、中村圭三、浜田弘明、

塩谷恭正

(3) 原稿の分量は、8～12 頁とする。

(4) 印刷会社は 5 社から見積もりを取り編集委員会で検討した結果、(株) 外為印刷に決定した。

(5) 出版に向けてのロードマップ

・2019. 7. 16 寄稿規定等の発送

・2019. 7. 27 第 6 回編集委員会議

・2019. 8 月中に印刷会社に見積もり依頼

・2019. 8. 27 第 7 回編集委員会

印刷会社決定、各人原稿執筆

・2020. 1. 10～3. 31 出来上がった原稿の収集 (加藤事務局長まで)

・2020. 4. 1～ 原稿の読み合わせ、書き直し依頼、執筆者とのやりとり、編集作業

・2020. 8. 1～9. 1 入稿

・2020. 10. 15～12. 21 校正 (3 回)

・2021. 1. 8～1. 14 念校、最終校正

・2021. 2. 20 法政大学地理学会創立 70 周年記念誌 発刊

・2021. 2. 20～会員へ・学生へ・献本等発送作業

2. 地理学研究奨励金

8 月末までに法政地理 51 号に掲載された 3 編の論文の執筆者から研究奨励金の申し込みがあった。今後は 9 月末か 10 月から審査を開始し、結果を常任委員会に報告して来年 2

月の学術大会で授与する。

来年度は、3月法政地理発行、5月末までに申し込みを締め切り、その後審査して9月末までに決定して常任委員会へ報告、2月の学術大会で授与する。

担当 :法政大学地理学会副会長 大塚一雄
問合せ先 : kotsuka415@gmail.com

<<学会ニュース原稿の募集>>

法政大学地理学会ニュースに掲載する原稿を広く会員の皆様から募集しております。原稿の

ご相談は、下記の連絡先までお願いいたします。

連絡先 : 庶務委員会 (shomu@chiri.info)

2019年9月30日発行

編集 法政大学地理学会庶務委員会

発行 法政大学地理学会常任委員会

〒102-8160

東京都千代田区富士見2-17-1

法政大学文学部地理学教室内

Fax. 03-3264-9459

E-mail hoseichiri@chiri.info

Web <http://www.chiri.info/index.html>

郵便振替 00170-9-167442